

<シナリオ 後半>

●プロローグ

田嶋先生は、これまで多くの外部連携を学生とともに実践してきたが、映像の世界は学生の多くが考えているエンターテインメントの世界だけではないことを実感してほしいと考えている。そこで、実践教育課程で新たな外部連携を行うことができないか、模索を続けている。新たな連携分野を模索するために、一見関係がないように思える分野の情報も取り入れたいと考えており、役所の産業振興課の担当者と定期的に情報交換を行っている。その中で紹介されたイベントには足を運ぶようにしており、積極的に参加者と交流をもつようにしている。

●イベントへの出席

そのような中で、学校が所在している地域の産業振興課が主催したイベントが行われた。大手通信業者の最新の通信網が導入され、実証実験が行われること、実証実験の内容が紹介されるイベントだった。映像も大量のデータを通信網に載せる必要があることは、今や学生も理解しており、新たな通信網が導入されればできることも各段に増える可能性があった。

そのイベントで、観光振興に関する行政の事業で、地域の観光地でARやVRを活用してインバウンド誘致を高めようとしており、都道府県の施策として大規模に行おうとしていることを知った。別の実証実験の発表では、それに伴い、まずモデル事業として医療分野における大容量データの送受信が可能になる施策が進んでいることがわかった。その事業に参加している大学附属病院では、医師の手術技術の向上のためにVRを導入しようとしていることがわかった。

●学生たちとのイベント出席

このイベントに行くにあたり、学内で興味関心がある学生に同行希望を募ったところ、5名の学生が同行を希望したため、出席した。学生は、説明会の質疑応答でいくつかの質問をしており、積極的に社会のニーズを理解しようとしたり、質疑応答で的確な質問をしてコミュニケーションをとったりしている姿を見て、以前、実践教育課程で行った企業担当者の説明会での質疑応答の場面で経験やスキルが生きていることが感じられた。

イベントの終了後、田嶋先生が役所の担当者や発表者と名刺交換や挨拶などをし、同行していた学生たちを紹介したところ、さまざまな分野の話を興味深く聞いており、それに対して自分たちができることはないかを考えているように見受けられた。外部との連携を続けてきたことで、企業の人や外部の人とつながることが当たり前になっており、そこで必要なコミュニケーションや思考力、調整力などが学生の中に育っていることが感じられた。

●学生たちへの展開

また、田嶋先生は、社会の多様な分野での映像制作ニーズが感じられ、学生たちには、将来、市場のニーズを探るためのさまざまな分野のマーケティングの知識やスキル、さまざまな分野の基礎的な知識も必要になるかもしれない、と考え、どのようにカリキュラムに組み込んでいくべきかを考え始めている。

手始めにどのタイミングで何をするのがよいか考え始めているが、まずは社会を知る、社会のニーズを知るための市場調査から始めてはどうかと考えている。市場調査については、いくつかの手法があるが、どのような手法で何を調査するのかを学生が考え、実践することで、将来映像制作を行っていくときに役立つのではないかと考えている。

学生に少し話をしてみると、「街頭調査」や「webアンケート」などの声を得られた。複数の調査方法をグループで実践してみることにし、それぞれの調査方法で必要になると考えられる知識やスキル、資質能力を学生にも考えさせ、それぞれの調査方法を進める中で必要になる資質能力に

は共通のものと手法によりそれぞれ別に必要になるものがあることがわかり、評価規順としては共通のものを設定した。手法別の規順については、個別設定とした。